

2 農作物適用農薬調査

1) 水稻ウンカ類（ヒメトビウンカ）に対する受託調査（S-8927粒剤）

(1) 目的 防除効果及び葉害の検討

(2) 方法

① 調査地 小山市寒川 現地農家水田

② 対象病害虫発生状況

ヒメトビウンカ：甚発生

③ 耕種概要(品種・施肥・一般管理)

品種：コシヒカリ（早植え）

播種：平成24年4月13日 移植：5月6日（機械植え） 出穂期：7月30日

栽植密度：条間30cm×株間19cm 施肥その他栽培管理は慣行による。育苗器使用。育苗はビニールハウス。

④ 区制・面積 1区 360m² (7.2×50m) 反復なし

⑤ 対象病害虫別供試薬剤(処理方法)

⑥ 処理年月日、量、方法、処理時の作物ステージおよび処理後の降雨の影響

播種時覆土前処理：S-8927粒剤は播種時（4月13日）に箱当たり50gを手散布で覆土前に育苗箱施用し、その後覆土を行った。

移植当日処理：フェルテラチェス箱粒剤は移植当日（5月6日）に箱当たり50gを手散布で育苗箱に施用した。

降雨の影響は特に見られなかった。

(調査期間中の降雨)

(アメダス小山の数値)

日付	4/14	4/17	4/22	4/23	4/26	4/27	5/1	5/2	5/3	5/4	5/6	5/9	5/10	5/11	5/15
降水量mm	27.0	8.5	3.0	17.0	1.0	26.0	1.5	14.0	173.0	15.0	5.5	9.5	1.0	0.5	24.5
	5/17	5/18	5/22	5/25	5/28	5/29	5/30	6/1	6/3	6/6	6/9	6/11	6/12	6/16	6/17
	2.5	13.0	3.0	4.0	7.0	32.0	3.5	3.0	4.0	2.0	21.5	1.0	3.5	3.5	2.5
	6/19	6/20	6/22	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/12	7/14		
	53.0	1.0	27.5	9.5	10.0	3.0	1.5	3.0	6.5	22.0	17.0	11.5	2.0		

⑦ 調査月日・方法

(調査月日)

移植22日後(5月28日)、移植32日後(6月7日)、移植40日後(6月15日)、

移植50日後(6月25日)、移植61日後(7月6日)、移植72日後(7月17日)

(調査方法)

各区3か所合計30株について15cm×20cmの範囲に粘着剤を塗布したB5版の板（黒色）を用いて払い落としを行い、ヒメトビウンカ幼虫、成虫数を調査した。葉害は随時肉眼により調査した。

(3) 結果

供試薬剤	処理量 処理方法	調査 個所	移植22日後			移植32日後			移植40日後		
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計
S-8927粒剤 カチアニジン 1.5% スピネトラム 0.5% Lot. J11-1F101	50g/箱 播種時 覆土前 処理	I	0	0	0	0	4	4	0	8	8
		II	0	0	0	0	7	7	0	10	10
		III	0	0	0	0	3	3	0	13	13
		合計	0	0	0	0	14	14	0	31	31
			(51.9)			(56.4)					
フェルテラチエス箱粒剤 クロントラニプロール 0.75% ピメトロシム 3.0%	50g/箱 移植 当日	I	0	0	0	0	17	17	0	27	27
		II	0	0	0	0	16	16	0	20	20
		III	0	0	0	0	9	9	0	18	18
		合計	0	0	0	0	42	42	0	65	65
			(155.6)			(118.2)					
無処理	—	I	0	0	0	0	9	9	0	18	18
		II	0	0	0	0	7	7	0	17	17
		III	0	0	0	0	11	11	0	20	20
		合計	0	0	0	0	27	27	0	55	55
			(100)			(100)					

()密度指数

供試薬剤	処理量 処理方法	調査 個所	移植50日後			移植61日後			移植72日後			葉害
			幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	幼虫	成虫	合計	
S-8927粒剤 カチアニジン 1.5% スピネトラム 0.5% Lot. J11-1F101	50g/箱 播種時 覆土前 処理	I	69	2	71	25	0	25	2	7	9	—
		II	67	3	70	25	0	25	4	6	10	
		III	63	3	66	21	0	21	18	12	30	
		合計	199	8	207	71	0	71	24	25	49	
			(18.9)			(3.9)			(9.4)			
フェルテラチエス箱粒剤 クロントラニプロール 0.75% ピメトロシム 3.0%	50g/箱 移植 当日	I	439	3	442	347	0	347	60	34	94	—
		II	199	0	199	346	0	346	71	39	110	
		III	393	0	393	446	2	448	57	32	89	
		合計	1,031	3	1,034	1,139	2	1,141	188	105	293	
			(94.6)			(62.7)			(55.9)			
無処理	—	I	520	1	521	713	0	713	133	36	169	
		II	303	1	304	621	0	621	134	24	158	
		III	267	1	268	486	1	487	159	38	197	
		合計	1,090	3	1,093	1,820	1	1,821	426	98	524	
			(100)			(100)			(100)			

()密度指数

(4) 考察

判定は無処理区で成幼虫数の最も多い、移植61日後の成幼虫の密度指数を重視して行った。

① S-8927粒剤 播種時覆土前 50g/箱

本剤の育苗箱当たり50g播種時覆土前施用は、対照のフェルテラチエス箱粒剤の育苗箱当たり50g移植当日施用と比較してまさる防除効果を示した。無処理からみても効果は高く、実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

(6) 参 考 縞葉枯病発生株率調査結果 (各区300株)

調査日	フェルテラチエス 箱粒剤	ダントツ 箱粒剤	無処理	移植後 日数	水稻のステージ
6/15	-			40日	
6/25	散見			50日	最高分けつ期頃
7/6	4.0%	1.0%	7.0%	61日	幼穂形成期頃
7/17	22.0%	7.3%	23.3%	72日	穂ばらみ期頃
8/15 (発病度)	49.3% (17.5)	13.0% (3.8)	57.3% (20.4)	101日	糊熟期(傾穂)

※6/15~7/17:葉身の病徴の発病株率

※8/15:穂の出すくみ株率

※発病度:8/15時点の穂の出すくみ(後期感染)状況(各区60株)

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / (4 \times \text{調査株数}) \times 100$$

A: 株の51%以上の穂が発病している。

B: 株の50~26%の穂が発病している。

C: 株の25~11%の穂が発病している。

D: 株の10%以下の穂が発病している。

E: 発病穂が認められない。

(7) 参 考 無処理区における発病程度別収量調査結果(代表株)

発病程度	穂数 (本数/m ²)	1穂籾数	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
B	179.4	78.6	0.67	21.2	200
C	233.2	84.2	0.63	20.9	259
D	275.8	80.8	0.75	20.7	348
E	368.6	79.4	0.70	20.6	424

※発病程度は8/15時点の穂の出すくみ(後期感染)状況。Aは発生株数が少なく未調査。

※調査株数はBのみ17株、他は14株。